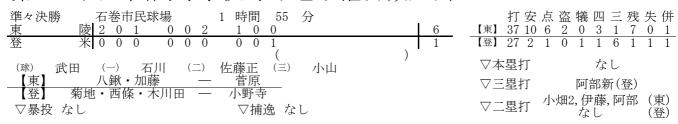
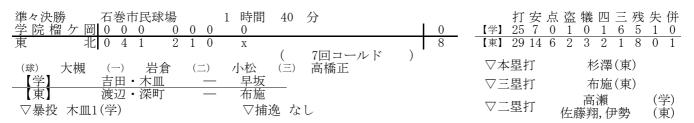
宮城県高等学校野球連盟

第98回全国高等学校野球選手権宮城大会



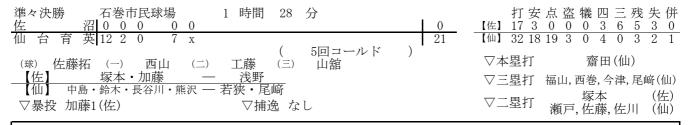
【評】

第1シード校の東陵とノーシードながら勝ち上がった登米の東部地区同士の試合。先手を取ったのは東陵。初回二死走者無しから3番小畑の二塁打を皮切りに、4番菅原、5番伊藤の連続タイムリーで2点を先取。3回には小畑の二塁打で追加点、6回には代わった西條から内野ゴロの間に2点、7回にもうまく足を絡めて1点を追加し試合を決めた。投げてはエース八鍬が登米打線を8回まで、内野安打1本、1四球の無失点に抑え、守備も無失策で快勝した。登米は9回に阿部新の三塁打を足がかりに1点を返すのが精いっぱいだった。その中でも先発した、主将で背番号10番の菊地が粘り強い投球を見せたのが光っていた。



【評】

シード校同士の対決となった準々決勝。先手を取ったのは東北。 2回先頭6番布施のライトフェンス直撃三塁打を皮切りに、9番佐藤翔大の適時二塁打、1番杉澤の二点走本塁打などで4点を先制した。続く3回にも先頭5番伊勢が左線二塁打で出塁すると、手堅く犠打で三塁へ進め7番千葉の右前適時打で1点を追加した。その後も着実に加点しリードを広げた。投げては先発渡辺が榴ケ岡打線に4回まで毎回安打を許すものの要所を三振で閉める力投を見せた。東北高校は、7回までほぼ完璧な試合運びを見せ、コールドで4年ぶり51回目のベスト4を決めた。



【評】

第3シード校の仙台育英とシード校の仙台三高を破り、勢いに乗る佐沼の試合。好ゲームが期待されたが、初回から仙台育英の猛攻となった。1回裏、無死2・3塁から内野ゴロの間に先制すると、福山・西巻の三塁打、齋田の3点本塁打を含む10安打を連ねて大量12点を奪った。2回にも今津の三塁打で1点、4回にも代打佐川の二塁打や尾崎の三塁打などで7点を奪った。投げては先発中島が2回に三者三振を奪い無失点の好投。他3人の投手をつぎ込み完封リレーだった。佐沼は4回表に鹿間と塚本の二連打で一死2・3塁の好機をつかんだが、後続が抑えられた。

宮城県高等学校野球連盟



【評】

ノーシードの利府が第3シードの柴田を下した。利府は初回、柴田先発保志から4安打と犠打をからめて2点を先制した。3回にも3番鈴掛の右越え本塁打を含む4連続安打などで4点を追加し、試合の主導権を握った。その後も、3回途中から救援した柴田主戦岩佐から小刻みに加点して計19安打、11点を奪った。一方の柴田は敗れたものの、利府の先発木村、リリーフ土田から12安打を放つなどシード校の意地を見せた。5点を追う5回裏には、2番太田の適時打で2点を返すなど点差を縮めたが、一度も利府からリードを奪えなかった。